



3年生は、「ひばりが丘大研究」をテーマに学習を進めています。この学習では、ひばりが丘の歴史や自然、建物を調べることやまちの人と関わりながら、自分たちが住んでいる地域について理解を深め、ひばりが丘の人々のまちや地域に対する思いや願いに気付くこと、また、自分たちもひばりが丘に住む一員として地域に愛着をもって生活していくことをねらいとしています。

1学期は、中原小学校の校章の由来から、ひばりが丘とひばりの関係について調べ学習を行いました。ひばりが丘という地名は、高度経済成長期にひばりか丘団地が建てられる際、ヒバリが多く飛んでいることから当時の田無神社の宮司であり田無町長であった賀陽氏によって「ひばりが丘」と命名されたということを調べました。そして、現在もヒバリがいるのかどうか、いこいの森公園に日本野鳥の会の方と一緒に調査に行きました。調べに行った時には、ヒバリは飛んでいませんでしたが、朝早く東大農場の上空にヒバリが飛んでいたことを野鳥の会の方に教えてもらいました。ヒバリは、小麦畑にたくさんいるそうですが、今では小麦畑も少なくなり、東京ではヒバリが減っているという現状を学びました。そのような現状を知り、ヒバリやそのほかの生き物も安心して暮らせる試みとして、中原小学校の校内の一部にも小麦畑を作りました。また、校内にビオトープも設置して、たくさんの生き物が住みやすい環境を作っています。今後もヒバリや多くの生き物も共存できるまちを作っていきたいと考えています。

2学期は、「ひばりが丘団地」に着目し、ひばりが丘団地はどのような団地だったのか、地域の人々がどのような思いや願いをもって暮らしてきたのかについて学習を進めています。当時、日本最初のマンモス団地として知られたひばりが丘団地は、昭和34年に入居が開始され、それにとまって本校も開校しました。現在の上皇陛下(当時の皇太子明仁親王)が視察に来られた際のベランダの現物も保存されており、3棟の建物も活用されながら現存しています。ステンレスシステムキッチン、水洗トイレ、風呂、LDKの誕生など、ひばりが丘団地は、当時最先端のあこがれの団地であったことを学びました。しかし、中原小学校が建て替えられたのと同様に、ひばりが丘団地も老朽化により建て替えを余儀なくされました。現在は53号棟、94号棟、118号棟が歴史の継承として残されて活用されています。118号棟はリノベーションされ、人々が集まれるようにカフェや学習塾、ミーティングルームなどコミュニティスペースとして使用されています。94号棟もエレベーターが取り付けられ福祉施設として活躍しています。53号棟はパークヒルズの管理棟となっていますが、見学をしたときに内装がかなり痛んでいました。学習を通して現在の団地の課題を見付け、自分たちにできることはないかを考え、歴史ある貴重な文化財を守っていきたいという子どもたちの考えから、53号棟の障子の張替えをすることになりました。障子を張り替えることが初めての児童ばかりでしたが、障子の張り替え方を調べ挑戦しました。ほこりも汚れもたくさんありましたが、何十年も使ってもらうのだと丁寧に拭き掃除をし、糊を付け、障子紙を貼りました。「上手に張り替えられていますね。」と管理棟の方からお褒めの言葉をいただきました。

これからも歴史あるひばりが丘について理解を深め、子どもたちにとっては自分たちのふるさとになるであろう「ひばりが丘」を身近に感じ、素敵な地域に愛着をもって過ごしてもらえたらと思います。

